



優 秀 賞

設計部門



①

株式会社 ブレック研究所

安河内 泰男 (応募代表者)

重松 博美

松崎 淳

株式会社 修成建設コンサルタント

家島 義宜

作品概要

作品名—— 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区のランドスケープデザイン
 所在地—— 奈良県高市郡明日香村大字檜前、大字阿部山、及び大字大根田
 発注—— 国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所
 設計—— 株式会社 ブレック研究所(四神の広場基本設計及びその他の実施設計)
 株式会社 修成建設コンサルタント(四神の広場実施設計)
 設計期間—— 四神の広場基本設計及びその他の実施設計:2012年10月~2013年3月
 四神の広場実施設計:2013年9月~2014年3月
 施工期間—— 竣工時期 2016年9月
 規模—— 約14ha
 主要施設—— 古墳鑑賞ゾーン、古墳安全ゾーン、南エントランスゾーン、歴史体験ゾーン、
 風景創出観賞ゾーン、田園環境保全ゾーン、展望休憩ゾーン、
 生活体験ゾーン、風景保全観賞ゾーン、北園エントランスゾーン

設計部門



②



③



④

①古墳鑑賞広場から臨むキトラ古墳 (古墳設計は別途) ②村道沿いの腰積み及び植栽が背後の傾斜地と一体化した景観の連続性を創出 (村道を通過する車両を遮蔽し騒音を低減する効果) ③建物 (四神の館 (本館・別館)) と一体化した四神の広場及び公園の施設配置 (歴史体験ゾーン) (建築設計は別途) ④展望所から臨む田園環境保全ゾーンと背景となる畝傍山・遠景の金剛葛城山系の山並みからなる連続的な景観 (建築設計は別途)

国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区のランドスケープデザイン

キトラ古墳周辺地区は特別史跡キトラ古墳を周辺の自然環境や田園環境とあわせて一体的に守るとともに、多くの人が飛鳥の歴史や文化、風土を味わい過ごせるよう計画された国営飛鳥歴史公園の五番目の地区として、平成 28 年 9 月に新たに開園されたものである。

歴史的文化遺産と自然的人文的環境が一体をなした飛鳥地域の歴史的風土は、本公園の基調をなす景観となっている。設計にあたっては周辺の農地・集落・山並み等と一体化した公園内外のエッジレスな景観形成に配慮し、これを最大限に活かすための公園整備をめざした。

・地形特性の活用、公園内外の景観的連続性、地域景観資源の取り込み等による歴史的風土の景観づくり

▶歴史体験ゾーンの「四神の広場」では、地区を分断する村道の通過車両を広場から視覚的に遮蔽し後背地の斜面との景観的連続性を確保するために、長大な大断面であった当初設計の村道法面を棚田地形に分節化する修正基本設計を行った。

・元々の農空間を構成する棚田・畦畔等の繊細な微地形が創出する細やかな景観スケール感を大切にしたランドスケープデザイン

▶文化庁により復元整備されたキトラ古墳周囲の古墳鑑賞ゾーンでは、元々の棚田地形を活かしたつづら折れの園路と広場を設けて、周辺の阿部山集落や背後の山並みと一体となった風景を味わいながら憩える古墳鑑賞広場とした。



作品評

本作品は、特別史跡キトラ古墳を周辺の自然環境や田園環境をあわせて一体的に守るとともに、飛鳥の歴史や文化、風土への理解が進むようにランドスケープデザインを行ったものである。

応募者は「日本人の心ふるさと」として開園された既往地区との関連性を踏まえながら、今回の対象地区である「キトラ古墳とその周辺地区」を、谷戸の田んぼや畑、斜面の棚田、尾根部の樹林等からなる繊細な微地形が公園区域内外に連続したエッジレスな景観にある、と紐解いた。そして、この景観的特色を最大限活かすよう、公園を分断する道路の遮蔽と道路造成により生じたのり面の景観的処理、谷戸部の田んぼの保全と再生、既存木や地形の保全等を進め、地域景観と一体となった穏やかなランドスケープを具体化した。合わせて、個々のディテールに細心の注意を払いながら、その様子を微塵も感じさせない豊かな表現性も高く評価された。